

第88話：「アノマロカリス」をざっくり紹介 台本

【テンプレ (OP)】

しろ：生物をざっくり紹介するラジオ、略してぶつざく、パーソナリティーのしろです。

とよ：同じくパーソナリティーのとよです。

るーん：ルーンです。

しろ：この番組は生物にまつわることをざっくり紹介する番組です。

とよ：本日もどうぞお付き合い下さい。

～ 雑談 ～

感想、お便りのコーナー

京都府在住のざく籍番号 BZ2206-57 のかけだし動物学徒さんからのお便りです。

オウムガイの紹介ありがとうございました！潜水艦と同じ仕組みだというのは初めて知りました。

(聞いてるときは液体が蒸発したら気体になることを失念していて、ボンベも無いのにどうやって気体を増やすんだろう？ってなりました笑)

目の始まり話もとても興味深かったです。

あと、前回ラジオネームミスってました。すみません...私はまだ学者ではなく学生で、卒論のデータ集めに奔走しています。

～ 雑談 ～

2通目のお便りです。

滋賀県在住の生き物好きのたららんさんからのお便りです。ざく籍番号は BZ2208-71 です。

この番組は、お二人の生き物大好きな感じが、ものすごく伝わってきて、いつもとても楽しく聞かせていただいています^^ さて、昨日バックナンバーのヤマカガシの話聞いていて、私が子どもの頃のことを思い出したので、お便りします。私は小学3～4年生くらいの頃、なぜかヘビ大好きだった時期がありまして、よくシマヘビやヤマカガシを捕まえていました。私が子どもの頃は、ヤマカガシは毒がないと言われていて、よく読んでいた生き物の本にもヤマカガシを飼う話が載っていたので、かわいいなあ～飼いたいなあ～と思っていたのでした。私の母は、私がトカゲやイモムシをどれだけ連れて帰っても何も言わなかった寛容な人でしたが、ヘビだけはどうしてもダメと飼わせてくれなかったのが、結局飼った事はないのですが、だいぶたってから、ヤマカガシは毒がある、というのを新聞で読んで、飼わなくて正解だったのか～ と思ったのでした。なんかヤマカガシという名前を聞いて、とても懐かしかったのと、猛毒って事を何度も強調されていたので、うわ～よく捕まえていたのになあ～ と思ったので、お便りさせていただきました。これからも楽しい話を楽しみにしています^^ がんばってください！

～ 雑談 ～

本題のお便り紹介

広島県在住の30代女性のPさん。ざく籍番号は BZ2204-49 です。

ようやく最新話に追い付いたのでお便りします！とよさん(部活なら先生じゃなくて部長？先輩？)の声がすごく聞きやすくしてろさんとの掛け合いも楽しく聞いてます。私を取り上げて欲しいのは1話から名前だけは出ていたアノマロカリスです！小学生の時に一目惚れしてから大好きです。

あと、私も平成からの仮面ライダー&戦隊好きなのでバツ回めっちゃ楽しかったです。ウルトラマンは最近の5作品くらいしか見てないのでそのおすすめも機会があれば教えて欲しいです。ルーンさんの声もとても好きなので出演回が増えることを楽しみにしています。

～ 雑談 ～

とよ：今日は何を紹介するんですか？

しろ：今日はPさんからのリクエスト「アノマロカリス」を紹介します。

基本情報

動物界・脱皮動物上門・節足動物門・恐蟹綱（きょうかいこう）・ラディオドンタ目・アノマロカリス科・アノマロカリス属の種です。一番有名なのはカナダのバージェス頁岩から発見されたアノマロカリス・カナデンシスという種。そのほかにもアノマロカリス・サロンやラガニアなどもある。アメリカや中国、オーストラリアでも発見されているが、未命名だったりする。アノマロカリスと言ってもいろいろいるんだね。

アノマロカリスの語源は、古代ギリシャ語の奇妙を意味するアノモロスにカニやエビを意味するカリスを組み合わせた造語で、つまり奇妙なエビってことだね。この発見の経緯も面白くて、まず 1892 年に前部付属肢が発見され、これが節足動物の胴体部だと考えられたことから新種のエビの化石としてアノマロカリスと命名された。続いて口と顎も発掘され、これもクラゲの化石としてペイトイアと名付けられ、胴体の部分が発掘されたときには新種のナマコ、ラガニアとして発表された。こうした経緯があって、最初の発見から 100 年後の 1985 年にラガニアの化石の削りだしから、これらがそろった化石であることが判明して、今まで別の生物だと思っていたものが規格外の大きさの生物の一部だったんだと判明して、最初に発表されたアノマロカリスという名がつけられた。

約 5 億年前の古生代カンブリア紀の海に生息していた。カンブリア大爆発で生まれた生物。ちなみにカンブリア大爆発について簡単に説明すると、カンブリア紀の爆発的な生物の進化のことで、それまでは海底を這うことしかできなかった生物が鰭や肢を使って海中を自由自在に移動できるようになった。この時期には現在の分類学上の 12 の門の原型となる生物がすべてそろったと言われている。先カンブリア紀には骨を持たずに移動しない生物ばかりだったのが、このカンブリア大爆発からは移動して捕食して、という食物連鎖が誕生した。その頂点にいたと言われているのがアノマロカリスだね。

頭部は胴部に対して明らかに小さく、正面には 1 対の前部付属肢、両背側には 1 対の複眼、腹面には放射状の口、背面と左右は 3 枚の甲皮におおわれている。この複眼ってのが意外とすごくて、1 万 6000 個のレンズがあったことが化石からわかっていて、現代までにこれを超える性能の複眼を持つものは 3 万個のトンボのみだとのこと。複眼で有名なハエでも 3000 個ほど。主軸の付いた複眼を動かすこともできたと考えられていて、眼から得た情報を処理していたことから、運動能力だけでなく、脳も発達していた可能性がある。胴部が上下に平たく、縦長のひし形をしている。胴部の表皮は柔軟で、背側には鰓と思われる楕状の構造体があり、両側には鰭が並んでいる。脚のような構造体はない。泳ぎ方はこの鰭を使ってエイやコウイカのような方法で泳いでいたと考えられている。アノマロカリスの主食は三葉虫って、昔は言われていたんだけど、今はその説は否定されている。アノマロカリスの歯はそこまで強くないので、結局柔らかいぜん虫類、プランクトンなどが主食だったとなっている。泳いで獲物を捕らえるには向いていないと言われている。泳ぐためではなく、えら呼吸のためにヒレを備えていたとか、海底のんびり移動して獲物を捕らえていたりとかしていたという説がある。海の覇者というよりは単純に大きくて天敵がいなかったってことだね。アノマロカリスが絶滅したのはその影響ともいわれ、天敵がいなかった分進化が頭打ちになってしまい、周りの生物が棘を生やしたり体を固くしたりして、獲物が取れなくなってしまったんじゃないかという説がある。

サイズに関しての説なんだけど、1990 年代にはアノマロカリスは 1 m 以上あったとされ、カンブリア最大の動物として有名だが、2010 年代後期以降では否定的である。というのも、全身化石はすべてやや小柄で、大体 17 cm ぐらい。大型個体は前部付属肢などの単離した硬組織のみしか見つかっておらず、その数値から最大体長が推算されているだけとのこと。

こんな素敵なアノマロカリスの化石、どこで会えるかと言ったら、愛知県の生命の海科学博物館、福井県の福井

県立恐竜博物館です。

【テンプレ (ED)】

しろ：お聞きくださり、ありがとうございました。ぶつざくは皆様からの温かいお便りを募集しています。 概要欄のお便りフォームからお送りください。

とよ：また、Twitter や YouTube にて、ぶつざくのお知らせをいろいろ配信しています。HP にもリンクを貼っているの、ぜひそちらも見ていただけるとすごく嬉しいです。


しろ：今回紹介した内容は「ざっくり」だけです。これ以降の深掘りに関しては、ぶつ部員の皆様に委ねます。

るーん：今もあの日の生物部がお送りしました。

とよ：ではまた次回お会いしましょう。

とよ・しろ・るーん：お疲れ様でしたー

【ストーリー紹介】

この話では「とよ 



」と「しろ 



」と「るーん 



」がパーソナリティーを務めます。

【参考】

- ・ [アノマロカリス /Wikipedia
\(<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%83%8E%E3%83%9E%E3%83%AD%E3%82%AB%E3%83%AA%E3%82%B9#:~:text=%E3%82%A2%E3%83%8E%E3%83%9E%E3%83%AD%E3%82%AB%E3%83%AA%E3%82%B9%EF%BC%88Anomalocaris%EF%BC%89%E3%81%AF%E3%80%81%E7%B4%84,%E3%81%A7%E3%81%82%E3%81%A3%E3%81%9F%E3%81%A8%E8%80%83%E3%81%88%E3%82%89%E3%82%8C%E3%82%8B%E3%80%82>\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%83%8E%E3%83%9E%E3%83%AD%E3%82%AB%E3%83%AA%E3%82%B9#:~:text=%E3%82%A2%E3%83%8E%E3%83%9E%E3%83%AD%E3%82%AB%E3%83%AA%E3%82%B9%EF%BC%88Anomalocaris%EF%BC%89%E3%81%AF%E3%80%81%E7%B4%84,%E3%81%A7%E3%81%82%E3%81%A3%E3%81%9F%E3%81%A8%E8%80%83%E3%81%88%E3%82%89%E3%82%8C%E3%82%8B%E3%80%82))
- ・ 5分でわかるアノマロカリス！奇妙なエビと呼ばれた最強生物の生態を紹介！ /ホンシエルジュ (https://honcierge.jp/articles/shelf_story/6219)
- ・ 実は大きい？「古生物の覇者」アノマロカリスの正体とは (<https://nazology.net/archives/100455>)